

第28回北海道法人会青年の集い北見大会経過報告

開催日 令和元年6月21日(金)
開催場所 北見芸術文化ホール
参加人数 来賓招待者30名 参加人数362名 一般参加者5名

第28回北海道法人会青年の集いは令和元年6月21日(金)北見芸術文化ホールにおいて全道30法人会青年部会より362名(道外6名含む)、来賓招待者30名が出席し開催された。

第1部大会式典では酒井青連協会長より「法人会は税知識の普及をはじめとする公益事業を積極的に推進している。新しい令和の時代となり、私共青年部会は次代を担う子供達へ租税教育を中心とする活動をより一層充実したものにして行かなければなりません。」と挨拶があり、その後、札幌国税局鈴木課税第二部長、オホーツク総合振興局藤田局長、辻北見市長、道法連加藤会長より祝辞を頂いた。

また、租税教育活動の参考事例として第32回法人会全国青年の集い岐阜大会での租税教育活動プレゼンテーションで優秀賞を受賞した札幌中青年部会「租税教育の世代間伝播～親から子へ、高校生から小学生・中学生へ～」、最優秀賞を受賞した金沢法人会青年部会「『税の使いみち総選挙2018』～繋がる租税活動」活動事例を披露した。両プレゼン共に子供たちに税金の事を伝えるだけでなく、親御さんと一緒になって家族で税金の事を考えてもらえるよう工夫した活動内容であった。

第2部記念講演会では一般社団法人ロコ・ソラーレ 代表理事 本橋麻里 氏より「0から1をつくる 地元で見つけた、世界の勝ち方」と講演があった。

第3部は屋外で北見ならではの焼肉形式での懇談会となり、参加された部会員は終始楽しみながら交流を深めた。



大会式典会場

第1部 大会式典 14:30～15:40

1. 開 会
2. 国歌斉唱
3. 式 辞 北海道法人会連合会
青年部会連絡協議会 会長 酒井保則
4. 来賓紹介
5. 来賓祝辞 札幌国税局 課税第二部長 鈴木 忍 様
北海道オホーツク総合振興局 局長 藤田 二 様
北見市長 辻 直孝 様
北海道法人会連合会会長 加藤欽也 様
6. 祝電披露



国税局鈴木部長祝辞



道法連加藤会長祝辞

7. 法人会全国青年の集い岐阜大会
租税教育活動プレゼンテーション

【租税教育の世代間伝播

～親から子へ、高校生から小学生・中学生へ～】

優 秀 賞 札幌中法人会

対 象 小・中・高校生及び保護者

参 加 延べ2,000名

「従来の講義型の租税教育だけで本当に効果があるのか」という疑問から、体験型の租税教育を模索。親や高校生も教育対象とし、更にその親や高校生が小中学生に租税教育を行うという世代を跨いだ取組み。身近に税金が使われている動物園と地下歩行空間で、税金にちなんだスタンプラリーや税の使われ方について学べるクイズショーを実施。高校生もプレゼンターとして iPad を駆使して活躍。楽しく印象に残ることを意識。



租税教育事例発表する
札幌中上田部会員

【「税の使いみち総選挙2018」～繋がる租税活動】

最優秀賞 石川県連 金沢法人会

対 象 小学6年生 11校 29クラス

参 加 958名

租税教室で宿題として持ち帰った「税の使いみちシート」を家庭で親と完成させ、一次選考を通過した小学校10校から選出された代表者1名がプレゼンを実施。来場者全員が投票を行い、グランプリを決定。今までの一方通行型の租税教室でなく、多くの大人たちにも繋がる租税教室を一貫したテーマとして開催。授業で税の使いみちについて皆で考える時間を設け、家庭で親に自分の考えを伝え、家族と一緒に考えることで多くの大人たちとも繋がる事業となった。



金沢法人会租税教育事例発表

8. 次回開催地挨拶 第29回北海道法人会青年の集い 滝川地方法人會青年部會
9. 大会宣言 第28回北海道法人會青年の集い 北見大會実行委員長 宮本幸喜
10. 閉 会



次回開催地挨拶(令和2年6月26日滝川市で開催)

第2部 記念講演会 16:00～17:30

テーマ 「0から1をつくる 地元で見つけた、世界の勝ち方」

講師 一般社団法人ロコ・ソラーレ

代表理事 本橋麻里 氏

第3部 懇談会 18:30～20:00

1. 開会挨拶 北見地方法人会 青年部会 部会長 塩野谷源一
2. 来賓挨拶 全国法人会総連合 青年部会連絡協議会 会長 玉川裕一 様
3. 祝 杯 北見税務署 署長 横山哲也 様
4. アトラクション
5. 閉会挨拶 大同生命保険(株)北海道地区営業本部長 内藤達哉 様



懇談会 北見塩野谷部会長 開会挨拶



懇談会 全法連青連協玉川会長来賓挨拶



懇談会風景

第28回北海道法人会青年の集い北見大会 大会宣言文

～これから、ここから始まる～

法人会青年部会が租税教育活動を通じて税知識の普及、納税意識の高揚という法人会の目的を果たすことは、適正な納税の啓蒙に始まり国家や地域社会運営の仕組みを伝えることで、国家観醸成の土台をつくるという意義があります。

その中であって税のオピニオンリーダーとして、国家の根幹を支える税と教育の両方に関わる法人会青年部会の役割は大きく、まさに公益に資する法人としての氏名であり、我々にしかできないことであります。この使命を共有する多くの仲間がオホーツクの中核都市、北見の地に集いました。

「北見」の名の由来はオホーツク海岸を「北海岸」と呼んでいたことから「北」、稚内の海岸からは快晴の日に樺太が見えることから「見」、一字ずつ取って「北見」としたとされています。明治時代の行政区域「北見国（きたみのくに）」は現在の稚内から斜里までを指し、壮大な地域を想起させます。

北見、そしてオホーツクには高いポテンシャルがあります、北見のハッカ産業はかつて世界を席卷しました。また大地は広大で流氷がもたらす恵みを楽しむ豊かな海を有し、農業、林業、水産業は日本トップクラスであります。そのような環境で育った北見のアスリートたちがオリンピックでメダルを獲得し、日本中を盛り上げた快挙は記憶に新しいところです。

ふるさと北見、オホーツク、そして愛する北海道は、開拓時から飛躍的に豊かになりましたが、伸び代はまだあります。北海道の伸び代は日本の伸び代です。同じく、我々の活動の伸び代は、法人会の伸び代でもあります。

これから、ここから始まる

北見、オホーツクより、いまこそ法人会青年部会がリーダーシップを発揮することでその使命と存在意義を発信し、北海道を牽引していくことを第28回北海道法人会青年の集い「北見大会」において宣言いたします。

令和元年6月21日

第28回北海道法人会青年の集い北見大会

